

【高齢・障害者施設】新型コロナ「第7波」以降の留め置き影響調査

2023年2月14日 京都府保険医協会

・調査は2023年1月25日～2月7日の期間、郵送で351施設に送り、FAX・インターネットで回収(回答率36%)。
 ・第7波以降(2022年6月15日～2023年1月25日)の留め置き状況を調査。
 ・利用者が陽性となった施設は86%、その陽性者の80%が施設内治療となった。
 ・入院できずに亡くなった人数は29人。府発表によると第7波(22年6月15日～11月末日)だけで92人が施設で亡くなっており、未回答施設に多くの死亡事例があることがうかがえる。
 ・施設内治療を行った施設のうち、「入院が必要と判断しただけできなかった」ところが47%にのぼる。
 ・その理由は、「保健所、救急隊員から「入院するところがない」と言われた」45%、「府の入院コントロールセンターが「入院不可だと言っている」と伝えられた」26%、「Spo₂の値のみを理由に入院不可だと言われた」22%。

対象施設	351	介護老人福祉施設(特養)	160	介護老人保健施設(老健)	69	養護老人ホーム	17	ケアハウス	56	障害者支援施設	49
回答数	128		50		25		6		18		29
回答率	36%		31%		36%		35%		32%		59%

1. クラスター発生件数

0回	1回	2回	3回	4回	5回	NA
32	49	35	6	1	1	4

2. 施設内での陽性者発生数

	施設数	母数128	人数
利用者	110	86%	2578
スタッフ	120	94%	1705
いない	4	3%	

3. 利用者の治療について(複数回答)

	施設数	母数110	人数	母数2578
入院治療	72	65%	293	11%
施設内	102	93%	2068	80%
不明			217	8%

4. 陽性確認後、何日後に入院できたか(最短及び最長)

当日	1～3日	4～6日	7～9日	10日以上
19	43	12	7	8

5. 施設内治療の医療提供を中心的に担ったのは誰か(複数回答)

	施設数	母数102	その他例	人数
施設の配置医師	62	61%	京都市対策チーム	1
地域の医療機関	13	13%	施設看護師	8
府の対策チーム	10	10%	施設職員	4
その他	21	21%	併設病院	1

6. 入院できずに亡くなった人数

	施設数	母数102	人数
あった	13	13%	29

7. 施設内治療に至る経緯(複数回答)

	施設数	母数102	その他例
入院が必要と判断しただけできなかった	48	47%	保健所が施設での治療・療養をすすめた ターミナル同意を得ており、搬送を希望されなかった
施設自身が判断した	30	29%	法人の指示
その他	26	25%	コントロールセンター返事待ち、保健所からサーチラージュンが低下しない限り施設でお願いされた

8. 現場は入院が必要と判断したにもかかわらず、入院できなかった過程(複数回答)

	施設数	母数102
保健所、救急隊員から「入院するところがない」と言われた	46	45%
府の入院コントロールセンターが「入院不可だと言っている」と伝えられた	27	26%
DNR(蘇生措置拒否)を希望していないことを理由に入院不可だと言われた	6	6%
DNR(蘇生措置拒否)を希望していることを理由に入院不可だと言われた	0	0%
Spo ₂ の値のみを理由に入院不可だと言われた	22	22%

9. 自由意見

1	入院コントロールセンターに連絡するも、リストの病院へ直接連絡するよう言われ、入院できずに重篤になった(第6波)。ショートステイのかかりつけ医が往診して発生届、内服処理してくれてフットワークが軽く助けられた
2	「頼れる親族がいないのであれば、入院調整できません」「病床逼迫しており、もっと重篤な方もおられるため入院調整できません」と救急隊員より言われた。
3	入院希望者を受け入れてもらえない事例は無かったが、入院調整が整わず、1日先延ばしになった事例はあり、1日早ければ命は助かったのではないかとと思われる
4	重症の方や重症化リスクの高い方でコントロールセンターや救急隊を通して入院先を探しても、受入が見つかるまで2~3時間かかったり、入院させてもらえないことがあった
5	高齢者施設なので医師は1名で看護師の人数も限られている。それなのに医療従事者がいるという理由で重症化リスクの高い感染症をみていくこと自体無理がある。職員自身も感染リスクがあり、施設での対応は無理であった
6	令和4年2月~3月に初めてのクラスターが発生し、その際は入所者、職員の9割(70人)が感染し週2回のPCR検査を繰り返し、陽性者が出なくなるまで続けた。今回のクラスターでは感染者が少人数で経過しPCR2回を実施した後は他所での発生多数のため、PCR検査を断られた
7	ガウン、手袋、マスク(高機能)がクラスター発生後、圧倒的に消費が早く在庫がなくなり、保健所や市から物資の供給を受けました。留め置きは発生しませんでした長期化した場合、施設内で対応は困難です
8	病床データを見る化すればいいのではないですか。実態が見えません
9	重症化リスクの高い者については、京都市の保健センターにピックアップしてもらい、入院が必要な者のリストにあげてもらったが、即日入院が不可能で救急車を要請し入院先が決まったのは2日後であった
10	そもそも陽性者発生時は病院へ転院できる前提で保健所に相談している。医療体制が逼迫していく状況は理解できるが、当施設では積極的な治療ができない。受入をしてもらえないと病状が悪化するリスクが高くなるし、悪化してからでは症状改善も難しくなる。急変時に救急車を呼んで転院してもらうことも数回あったので、コントロールセンターの機能を果たしていない
11	Spo2が92~93%と低めも呼吸困難の訴えなどない場合、肺炎を併発していないかとは分からないので、施設で経過観察でよいか不安であった
12	多床室の施設であること、認知症等で病気の理解ができず歩き回る等、隔離が困難な状況がある。コロナ陽性者を施設で治療することに限界を感じる
13	特養内での隔離対応は限界がある。入院できないとクラスターはすぐに起こると思います
14	今後、コロナ感染があり、入院しなくてはいけない状況になった場合に他入所者の対応や感染者が居室内にいるなかで職員を介して感染者が増えることが懸念することです受入体制があれば助かります
15	主治医の判断で入院の必要性がないということで、訪問看護で体調把握、確認していた。食事の摂取量が少なく体力が低下していたので入院していただきたかった
16	高齢者施設内では適切な医療を提供できない。また、感染症対応では不完全で拡大を防げなかった
17	医療機関までの搬送手段がない。入院判断に時間がかかる。施設医師が入院判断しているのに、必要性はないと言われる
18	医療機関では入院可否の権限が与えられてない。入院については保健所と相談して下さいの一言
19	これまでに施設側で入院を要すると判断したケースはなかったが、今後入院が必要との判断に至った場合、施設では医療的、十分な感染対策に対する設備が整っていないため、受け入れをお願いしたい
20	特養内での隔離対応は限界がある。入院できないとクラスターはすぐに起こると思います
21	高齢者施設の入居者は原則入院でないと様々な影響が広範囲に深刻に及ぶため、今後は何とか検討、実施してもらいたいです
22	これまでに施設側で入院を要すると判断したケースはなかったが、今後入院が必要との判断に至った場合、施設では医療的、十分な感染対策に対する設備が整っていないため、受け入れをお願いしたい
23	府の医療サポートチームの連日の往診はとても有効でした。5類に移行しても継続されることを望みます
24	「病院に入院させる」と保健所の指示で行ったが、病院で「入院が必要でない」と言われて戻ってきた
25	当事業所は、重度化しそうな方は、早めの隔離で問題なかったが、障害を理由に、入院できるかどうかかわからないのは、不安でしかない
26	一般型のケアハウスであり、医療職が在籍していない施設では、原則入院で対応して頂きたいです。医療体制のない中での対応はできないため
27	入院の一人は陽性判明後にSpo2が80台だったため救急要請。8件目で「診ます」と言ってくださり、受診の結果、誤嚥性肺炎がわかった。もう一人はSpo2が80台で熱も下がらず、それでも受入先がなく、酸素吸入で対応。夜間は看護師がいなかったので現場介護職はずっと不安の中での対応だった
28	コロナ始まって以降、入居者一人しか出でならず、原因が不明のまま終わってしまい、今後もしっかり予防をしていきたい
29	クラスターが発生し、一度に多数の陽性者が出たとき(R4年5月)は施設内療養でしたが、それ以後は一度に多数の陽性者は出ていないため、速やかに併設病院に入院させていただき大変ありがたいです
30	地域の協力病院から献身的に往診していただいたお陰で大変安心して施設内療養ができた。本当に感謝しています
31	併設病院、法人内病院もあり特に問題はない
32	ワクチンの効果かどうかはわからないが罹患された入居者も重篤化することはなかった
33	類型の見直しで社会的に現状改善が実現することを祈っています
34	京都府の感染サポートチームの皆さま、派遣看護師の皆さまには施設で行き詰っていた時期にご支援をいただき大変感謝しております
35	Spo2の値、症状で基本入院はできないが、Spo2の低い場合は入院できる場合もある、という認識であった
36	時期的にははじめはスムーズに入院できたが、最後の一人は施設内でベクルリ点滴治療が改善しない場合に入院調整しますと言われた
37	今回は京都府感染専門サポートチームの応援及び助言アドバイスや京都市医療衛生企画課の物品の貸し出しもあり、職員の精神的・肉体的負担の軽減に繋がりました
38	ゾーニング、正しいPPEの着脱等、基本的な感染対策が重要と気づきました。クラスターは発生する数週間前に、京都市主催の感染対策実地研修を受けることができ、正しいPPEの着脱やゾーニングエリアの見直しを行う事が事前にできていたので、クラスターを少ない数で抑える事が出来たと思います。又、陽性者(利用者)が発生後、早い段階で府の施設内感染専門サポートチームの方に来所頂き、陽性者や濃厚接触者の方の具体的な感染対策のアドバイスを頂けた事が大変心強かったです。今年5月からコロナが5類になるとのことですが、そういった感染対策に長けた方のサポートが受けられなくなると懸念しています
39	サポートチームから往診医派遣して頂き、非常に助かりました